〔研究ノート〕

フロベールの方法 (1)

——「構想」と「プラン」——

榊 原 英 城

Médite bien le plan de ton drame; tout est là, dans la conception.[1)]

あなたの戯曲のプランをよく練りなさい。すべてはそこに，構想にあるのですから。

愛人ルイズ・コレに宛てた手紙で，フロベールは作品創造における「構想」の重要性を繰り返し助言する。この「構想」についての考え方はフロベールの創作上の持論の一つであり，彼の方法の核心をなすものであると思われる。

フロベールの遺した夥しい書簡——なかでもフロベールが『ボヴァリ夫人』を書きつつある時期，執筆に疲れた深夜，ルイズ・コレに宛てて書いた数多くの手紙は，己れの文学観をあふれるような勢いで述べたてるフロベールの姿とともに，連日に亘る文章との苦闘のなかで「書くことの苦しさ」affres du style を訴える姿に満ちている。

Oh! quelle polissonne de chose que le style![2)]

文章とは何とまあ手に負えぬ奴でしょう。

Quel lourd aviron qu'une plume et combien l'idée, quand il la faut creuser avec, est un dur courant![3)]

ペンというのは何と重い擢なのでしょう。それでもって考えを掘りさげてゆこうとすると，考えというのは何という扱いにくい流れでしょう。

思ったように筆が進まぬことを歎くのは，初めての本格的長編であった『ボヴァリ』執筆のときだけに限らず，決定稿『感情教育』の場合も，遺作となった『ブヴァールとペキュシェ』の場合も，大なり小なり同様の訴えが繰り返されるのである。

ところで，その「書くことの苦しさ」の訴えに劣らず頻繁に書簡のなかに現れるのが，作品の「構想」に関する文章である。フロベールは度々，今書きつつある作品の「構想」について言及し，「構想」が悪くはなかろうかと盛んに心配している。そうした不安は『ボヴァリ』執筆の頃から始まったように思われ，それ以来飽くことなく繰り返し表明されるが，とりわけ『感情教育』制作の頃になり，フロベールが言わば小説のメチエに習熟し，作品を計画通りに着々と書き進められるようになってくると，「構想」についての不安は文章を書くことそれ自体の苦しさより以上に表立ってくるように思われるのである。それは晩年の『ブヴァール』のときになるといよいよ激しくなり，『ブヴァール』という作品のすべては「構想」の当否にかかっていると断言する。

一体，作品の「構想」というのは何のことか。フロベールのその言葉の使い方は必ずしも明確とは言えない。例えば，どういう風に使われているか，『感情教育』についての例を二，三あげてみよう。

Je crois, au contraire, que ce sera une œuvre médiocre, parce que la conception en est vicieuse ? [4)]

それどころか，これは凡庸な作品になるだろうと思います。というのは，作品の構想に欠陥があるからなのです。

Quant à celui que je fais, j'ai peur que la conception n'en soit

vicieuse, ce qui est irrémédiable; des caractères aussi mous intéresseront-ils ? [5]

私が今書いているものに関しては，作品の構想がまずいのではないかと虞れています。といって，もうどうしようもありません。こんな柔弱な人物たちが読者に興味を起こさせるでしょうか？

Je finis par être fourbu comme une vieille rosse, d'autant plus que je ne suis pas sans de violentes inquiétudes sur la *conception* de mon roman; mais il est trop trad pour y rien changer.[6]

よぼよぼの駄馬のように疲労困憊してしまいました。私の小説の構想がどうにも不安でならないのでなおさらです。といって，それを少しでも変更するにはもう遅すぎるのです。

等々，この種の訴えは数えきれない。この「構想」という言葉でフロベールが何を意味しようとしていたか，又なぜ「構想」にそれほど拘わるのか，即ちフロベールにおいて「構想」とは何であったかを明らかにするために，以下，書簡集からいくつか例をひいて検討してみたい。ただ，どの例も似たような表現なので，「構想」の内容をより明確に摑むため，「構想」とは別の言葉で「構想」の場合とよく似た使い方がされている言葉をもあわせて引用し，「構想」との関係を探ってゆきたい。

最も目につく表現として，「構想がすべてだ」という言い方がある。

Réfléchis, réfléchis avant d'écrire. *Tout dépend de la conception.* Cet axiome du grand Gœthe est le plus simple et le plus merveilleux résumé et précepte de toutes les œuvres d'art possibles.[7]

よく考えなさい，書く前によく考えなさい。構想がすべてなのです。大ゲーテのこの公理は，ありとある芸術作品の最も単純で最も見事な要約

であり戒律であるのです。

「書く前によく考えなさい」と言っているところから，作品の「構想」というものが執筆に取りかかる以前に既に出来上っているべきものであることがわかる。

次に，別の個処で，

> [...] ce qui n'empêche pas que le susdit chapitre ne soit *assommant* et ne paraisse très long et très obscur, parce que la conception, le fond ou le plan (je ne sais) a un vice secret que je découvrirai.[8)]
>
> それでもその章は退屈で長たらしく曖昧なものにならざるを得ない。というのは，その構想，内容，プラン（どう言ったらいいかわからないが）に隠れた欠陥があるからなんだ。

ここでは「構想」を「内容」fond,「プラン」plan と並べている。「内容」は勿論「形式」forme に対する言葉として使われているものと思われるが，「プラン」の方は「構想」の場合と同じような表現で，同じほど頻繁に現れる言葉である。

> De ce que j'avais beaucoup travaillé les éléments matériels du livre, la partie historique je veux dire, je me suis imaginé que le scénario était fait et je m'y suis mis. *Tout dépend du plan. Saint Antoine* en manque; la déduction des idées sévèrement suivie n'a point son parallélisme dans l'enchaînement des faits. Avec beaucoup d'échafaudages dramatiques, le dramatique manque.[9)]
>
> 作品の素材となる要素，つまり歴史的な部分のことですが，それにずい

ぶん手間をかけたから，もう筋書は出来上ったと思いこんで，書き始めてしまったのです。プランがすべてです。『聖アントワヌ』にはプランがない。厳密に追求された思想の演繹も，事実の繋がりと対応していないし，劇的な足場はあっても，劇的なものそれ自体は欠けているのです。

「プラン」と「構想」との関係に立ち入る前に，もう少し他の類似の用例を引いてみたい。

La religion est une conception variable, une affaire d'invention humaine, une idée enfin; l'autre un sentiment.[10]

宗教とは一つの変りやすい構想，人間の発明物，つまり一つの着想ですが，他方（信仰）は一つの感情です。

ここでは「構想」が「着想」idée と近い意味で使われている。これと同様の例として，『感情教育』という題名についてフロベールが述べている個処に次のような文章がある。

Je ne dis pas qu'il soit bon, mais jusqu'à présent c'est celui qui rend le mieux la pensée du livre.

Cette difficulté de trouver un bon titre me fait croire que *l'idée* de l'œuvre (ou plutôt sa conception) n'est pas claire ?[11]

私はこれがいいとは言いませんが，今のところ，この本の思想を最もよく表わしているのがこれなのです。

よい題名を見つけにくいということも，この作品の着想が（或いはむしろ，その構想が）はっきりしていないということを私に考えさせます。

更に，「構想」を「方法」méthode といれ替えた例がある。

Aujourd'hui pourtant je me suis remis à la *Bovary;* je rêvasse à l'esquisse, j'arrange l'ordre, car tout dépend [de] là : la méthode.[12)]

それでも今日，又『ボヴァリ』に取りかかりました。下書きのことを考えてみたり，順序をととのえたりしています。なぜなら，すべてはそれ，つまり方法次第だからです。

「構想の不安」と同じような意味合いで，「全体」ensemble 或いは「全体のプラン」plan général という言葉が使われる例も数多い。

Carthage me fera crever de rage. Je suis maintenant plein de doutes, sur l'ensemble, sur le plan général; je crois qu'il y a trop de troupiers.[13)]

『カルタゴ』(『サランボー』) のために狂ってくたばりそうだよ。僕は今，全体に関して，全体のプランに関して不安でいっぱいだ。兵隊が出てきすぎると思うんだ。

A mesure que j'avance, mes doutes sur l'ensemble augmentent et je m'aperçois des défauts de l'œuvre, défauts irrémédiables et que je n'enlèverai point, une verrue valant mieux qu'une cicatrice.[14)]

書き進むにつれて，全体への不安が増すばかりだ。作品の欠点，それも取りかえしのつかない，取り除けそうにない欠点に気づいたんだ。傷口を塞ぐのはむつかしいが疣を取り除くのは楽なんだから。

「全体」を「統一性」unité という言葉と関連させて使った例を序でにあげておこう。

Travaille, médite, médite surtout, condense ta pensée, tu sais

que les beaux fragments ne sont rien. L'unité, l'unité, tout est là! L'ensemble, voilà ce qui manque à tous ceux d'aujourd'hui, aux grands comme aux petits. Mille beaux endroits, pas une œuvre.[15]

仕事をなさい，何よりも計画を立てなさい，思想を凝縮するのです。美しい断片など何の意味もないんですよ。統一性，統一性，すべてはそこにあるのだ！　全体，これこそ現代のあらゆる作家，偉大な作家にも卑小な作家にも欠けているものなのです。美しい部分は沢山にある，しかし作品と呼べるものは一つとしてない。

「観念の秩序」ordre des idées という表現の例もある。

L'ordre des idées, voilà le difficile, et puis, comme mon sujet est toujours le même, qu'il se passe dans le même milieu et que j'en suis maintenant aux deux tiers, je ne sais plus comment m'y prendre pour éviter les répétitions. La phrase la plus simple comme «il ferma la porte», «il sortit», etc., exige des ruses d'art incroyables![16]

観念を秩序だてること，それがむつかしいのです。それに，私の主題は相変らず同じで，同じ環境のなかで事が起こり，今三分の二のところまで来ているので，同じことの繰り返しにならないためにはどうしたらいいのかわからないのです。「彼は扉を閉めた」とか，「彼は出ていった」とかいったごく簡単な文章を書くのにさえも思いもよらぬほどの技巧が要るのです。

同じく全体に関連するものではあるが，「構成」composition とは同一視されていない。

Dimanche dernier, j'ai lu en épreuves *Boule de Suif* que je trouve *chef-d'œuvre* ni plus ni moins. Conception, observation, personnages et paysages et surtout Composition (chose rare), c'est parfait.[17]

先週の日曜，私は校正刷で『脂肪の塊』を読みましたが，これはまさしく傑作です。構想といい，観察といい，人物，風景といい，完璧です。とりわけ（めったにないことですが）構成がすばらしい。

又，「構想」の良い悪いという言い方と似た例として，「意図」intention，「全体の構図」dessin général なども使われる。

Ce dont je suis sûr, c'est qu'elle sera neuve et que l'intention en est bonne.[18]

確かなことは，この場面が斬新なものである，その意図は良いということです。

Je travaille sans relâche au plan de mon *Éducation sentimentale*, ça commence à prendre forme? Mais le dessin général en est mauvais! ça ne fait pas la pyramide! Je doute que j'arrive jamais à m'enthousiasmer pour cette idée.[19]

休みなく『感情教育』のプランをつくっています。何とか形を成してきたでしょうか。ところが作品の全体の構図がよくないのです！　ピラミッドを成さないのです！　この着想に夢中になるところまでいかないのではないかと心配です。

ここでも，「プラン」が同じように使われ，「プランが良い・悪い」という例は数えきれない。

Je t'avouerai que le plan, que j'ai relu hier soir après mon dîner, m'a semblé *superbe*, mais c'est une entreprise écrasante et *épouvantable*.[20]

ゆうべ，食事のあとで読みかえしたのですが，プランがすばらしいと思ったことは事実です。しかし，何とも骨の折れるぞっとするような計画なんです。

Bref, je ne suis pas gai. Je crois que mon plan est mauvais et il est trop tard pour rien changer, car tout se tient.[21]

要するに，機嫌がよくないのです。プランが悪いと思うのですが，少しでも変更するには遅すぎるのです。すべて関連しあっているものですから。

次に「構想」の重要性の理由をいくらか詳しく述べていると思われる例を引いてみよう。

Mais quand j'écris quelque chose de mes *entrailles*, ça va vite. Cependant voilà le péril. Lorsqu'on écrit quelque chose de *soi*, la phrase peut être bonne par *jets* [...], mais l'*ensemble manque*, les répétitions abondent, les redites, les lieux communs, les locutions banales. Quand on écrit au contraire une chose *imaginée*, comme tout doit alors découler de la conception et que la moindre virgule dépend du plan général, l'attention se bifurque.[22]

が，自分自身の臓腑から出たものを書くなら速く進みます。しかしこれが危険なのです。何か自分自身のことを書くときには，文章は噴き出るようにうまく書けるかもしれませんが [...]，全体が欠けるのです。同語反復，繰り返し，常套句，陳腐な表現があふれてきます。これと反対

に想像の産物を書くときには，すべてが構想から生ずるのですし，ちょっとした句読点一つでさえも全体のプランにかかわってくるので，注意が二分されます。

「構想」の有無による制作態度の違いの説明だが，まさに「想像の産物」である『ボヴァリ』を書き始めた頃からフロベールが「構想」のことを気にしだしたことは前述した。

以上引用してきた例から，作品の「構想」という言葉でフロベールが意味しようとしている内容は，「着想」に近いものらしく，作品の「全体」とか，作者の「意図」にかかわるものであるらしいことはわかったが，フロベールのそれらの言葉の使い分け方は厳密であるとは言えず，依然「構想」の意味は今一つはっきりしない。ここで少し観点をかえて，フロベールの「主題」sujet についての考え方を書簡のなかに探って，「主題」との関係から「構想」を解明していきたいと思う。

「主題」という言葉も度々書簡集に現れる。そして，これ又フロベールが何度も繰り返し述べている表現に次のようなものがある。

C'est pour cela qu'il n'y a ni beaux ni vilains sujets et qu'on pourrait presque établir comme axiome, en se posant au point de vue de l'Art pur, qu'il n'y en a aucun, le style étant à lui tout seul une manière absolue de voir les choses.[23]

主題に美しいも醜いもない，そして純粋な「芸術」の観点からすれば，ただ文体のみが物象を観る絶対の方法なのですから，主題などというものは問題ではないということを公理として殆ど確言し得るのもこのためなのです。

大切なのは「文体」であって，主題そのものには良し悪しはない，よい主題を持っていることは必ずしもよい作品が出来上ることを約束しはしないという

わけだ。主題が壮大であっても美しくても，そのことには何の重要性もない。従ってフロベールは「主題の選択」ということをもあまり重視していない。それどころか，

> J'aimerais mieux écrire un livre de passion. Mais on ne choisit pas ses sujets! on les subit.[24]
>
> 熱中できる本を書いた方がましです。しかし人は自分の主題を選ぶのではない，ただそれを受け入れるのです。

とさえ言っているのである。

ここからフロベールの有名な「主題のない小説」という夢想が生れてくる。

> Ce qui me semble beau, ce que je voudrais faire, c'est un livre sur rien, un livre sans attache extérieure, qui se tiendrait de lui-même par la force interne de son style, comme la terre sans être soutenue se tient en l'air, un livre qui n'aurait presque pas de sujet ou du moins où le sujet serait presque invisible, si cela se peut. Les œuvres les plus belles sont celles où il y a le moins de matière; plus l'expression se rapproche de la pensée, plus le mot colle dessus et disparaît, plus c'est beau. Je crois que l'avenir de l'Art est dans ces voies.[25]
>
> 私に美しく思えるもの，私の書きたいもの，それは何について書かれたのでもない小説，外的な繋がりが何もなく，地球が支えられなくても宙に浮んでいるように，自らの文体の内的な力のみによって成り立っている小説，出来れば，殆ど主題がないか少なくとも主題が殆ど目につかない小説です。最も美しい作品というのは，最も素材の少ない作品です。表現が思想に近づけば近づくほど，言葉は思想に密着して消滅し，それだけ美しくなります。芸術の未来はこの方向へゆくものと私は信じます。

主題が重要でないとすれば，一つの作品がよいものとなるためには，ありふれた主題をいかに独自の方法で作りあげるかという作者の方法が問題になるのは当然だ。

> Qu'est-ce qui ne se ressemble pas et qu'est-ce qui se ressemble? est-ce qu'on conçoit jamais le même sujet d'une façon identique; va donc et ne t'inquiète de rien.[26]
>
> 似ていようと似ていまいと構うものか。同じ主題を全く同じ方法で構想することがあると思うかい？　気にしないで書きつづけたまえ。

別の人間が同じ主題を全く同じ方法で見ることはない。従って，ある主題を「構想する」concevoir 方法にすべてはかかってくる。主題の扱い方が独自であれば，構想の仕方が独自であれば，作品は独自でありうるということになる。フロベールが作品の「構想」と呼んでいるものは，この何らかの固有の方法による主題の扱い方のことではないかと思われる。

同じく「主題」を「構想する」（主題を思いつく）という表現を使った例をもう一つ引いてみよう。

> Voilà ce qui fait de l'observation artistique une chose bien différente de l'observation scientifique: elle doit surtout être instinctive et procéder par l'imagination, d'abord. Vous concevez un sujet, une couleur, et vous l'affermissez ensuite par des secours étrangers. Le subjectif débute.[27]
>
> このことが芸術的観察を科学的観察とは異なったものにしているのです。つまり，芸術的観察は何よりも本能的であらざるを得ず，まず想像力が出発点となるのです。ある主題，ある色彩が頭に浮び，ついで外からの助けでそれを固めてゆくことになります。主観的なものから始まるのです。

主題だけでは作品は成り立たない。主題に対する観点，主題の組み合わせ，要するに主題の扱い方についての「構想」があって初めて作品は最初の形を成すところへ行くわけで，その構想の良し悪しが作品の成否を決めることになる。ありふれた主題であろうと構想がよければよい作品を生むことができるということだ。

Les bons vers ne font pas les bonnes pièces. Ce qui fait l'excellence d'une œuvre, c'est sa *conception*, son *intensité* et, en vers surtout, qui est l'instrument précis par excellence, il faut que la pensée soit tassée sur elle-même.[28]

よい詩句がよい作品をつくるわけではありません。一つの作品を優れたものにするのは，その構想，その強さです。とりわけ正確な手段である韻文においては特に，思想と思想の間にすき間があってはいけません。

L'originalité du style découle de la conception. La phrase est toute bourrée par l'idée, à en craquer.[29]

文体の独創性が構想から生れています。文章は思想が詰めこまれていて，きしきしいうほどです。

Et puis, l'Art doit s'élever au-dessus des affections personnelles et des susceptibilités nerveuses! Il est temps de lui donner, par une méthode impitoyable, la précision des sciences physiques! La difficulté capitale, pour moi, n'en reste pas moins le style, la forme, le Beau indéfinissable *résultant de la conception même* et qui est la splendeur du Vrai comme disait Platon.[30]

それから，「芸術」は個人的な好悪や神経の感じやすさを超越すべきものです。今や厳密な方法によって，芸術に物理学の正確さを与えるべき時です。そうは言っても私にとって最も困難なことは，やはり文体で

あり，形式であり，構想それ自体から由来する，プラトンの言う「真」なるものの輝きである言い表わしにくい「美」であるのです。

「美」は「構想」から由来する。では，どのような「構想」が芸術作品の美をなすとフロベールは考えていたか？

Toute œuvre d'art doit avoir un point, un sommet, faire la pyramide, ou bien la lumière doit frapper sur un point de la boule. Or rien de tout cela dans la vie. Mais l'Art n'est pas la Nature![31]

あらゆる芸術作品は一つの点，頂点といったものを持ち，ピラミッドを成していなければなりません。或いは光線が球体の一点に当っていなければなりません。ところで現実のなかにはそんなものはない。が，芸術は自然とは違います。

「文体」とか「形式」とかいう言葉は末梢的な小手先の技術といった感じを与えるかもしれないが，フロベールの言う「構想」が作品の全体に関するものであることは，前に引用した「全体」「統一性」などの例によって明らかであろう。そもそも，「内容」と「形式」とは分離し得ないものだというのも，フロベールの持論の一つである。

Non, tout cela n'a pas été assez creusé peut-être, car ces distinctions de la pensée et du style sont un sophisme. Tout dépend de la conception.[32]

いや，そういう問題は今まで深く考えられてこなかったのでしょう。なぜなら，思想と文体とを区別するのは詭弁です。構想がすべてなのです。

Où la Forme, en effet, manque, l'idée n'est plus. Chercher l'un, c'est chercher l'autre.[33]

実際,「形式」の欠けている処には思想も又ありません。一方を求めることは即ち他方を求めることになるのです。

Enfin, je crois la forme et le fond deux subtilités, deux entités qui n'existent jamais l'une sans l'autre.

Ce souci de la beauté extérieure que vous me reprochez est pour moi *une méthode*.[34]

要するに,形式と内容というやっかいな言葉,それはそれぞれがお互いなしでは存在できない二つの実体です。

外的な美への配慮をあなたは非難されますが,それは私にとっては一つの方法なのです。

Il n'y a pas de belles pensées sans belles formes, et réciproquement. [...] car l'Idée n'existe qu'en vertu de sa forme. Suppose une idée qui n'ait pas de forme, c'est impossible; de même qu'une forme qui n'exprime pas une idée.[35]

美しい形式なくして美しい思想はありませんし,その逆も言えます。[...] なぜなら思想は形式によってしか存在し得ないのです。形式を持たない思想というものを考えてごらんなさい。考えられやしません。何の思想も表わしていない形式というものも考えようがない。

「構想」という言葉は,それ故,「主題」と「主題」の扱い方,即ち「形式」との両方にかかわるもの,両者を繋ぐものとしての意味をもつと考えるべきであろう。

C'est toujours la même question, celle des Poétiques. Chaque

œuvre à faire a sa poétique en soi, *qu'il faut trouver.*[36]

相変らず同じ問題，「詩法」の問題なのです。作られる一つ一つの作品は自らのうちに自らの詩法を持ち，それは見つけられねばならないものなのです。

ここでフロベールが「詩法」poétique と呼ぶもの，それこそが構想を中心としたフロベール固有の方法のことである。

さて，「構想」と「プラン」の関係であるが，先の引用例の，「ある主題が生れたら，次にはそれを固めてゆく」という表現に注目したい。「プラン」という漠然とした言葉でフロベールが言おうとしているのは，この「主題」を「固める，確立する」affermir という作業のことではないかと考えられる。作品の執筆に本格的に取りかかる前に構想を十分に練る——それがフロベールにとっての「プラン」という作業の意味であろう。それは構想を固めるための必要な準備期間であって，大切な欠かせない仕事であるわけだ。作品制作全体において，「プラン」を作ることが最も大切な，困難な仕事だとさえフロベールは言う。

Le principal et la seule chose difficile, c'est d'avoir un plan quelconque, et que ces bêtes de lignes ne se bornent pas à être une sèche nomenclature.[37]

最も重要な，ただ一つの困難なことは，何らかのプランを持つということであり，文章のやつが無味乾燥な言葉の行列にならないようにすることです。

次第次第に詳しくプランを練り，プランを重ねることにより，フロベールは作品に近づいてゆく。プランが気に入らなければ，何度でも気に入るまで練り直し，書き直す。

全体のプランが確立すると，更に詳細な筋書，各場面場面のプランを作り，それから漸く本腰をいれて書き始めるという段取りになる。既にプランが完全に出来ているから，執筆の間フロベールは前以て作ったプランに従って書いてゆきさえすればいいわけだ。プランが確立していれば，あとはただプランを十分に生かすように書けるかどうかというメチエの問題が残っているだけだ。勿論，書いている間中，「全体のプラン」が常に頭のなかにあることが必要となる。

書きつつある一つ一つの場面，個々のデテールは，常に全体のプランとの関係を考慮して書かれねばならないし，いかに良く出来た部分でも，前に引用した個処で言っていたように，それだけでは何の意味もなく，全体の役に立たなければ涙をのんで捨て去られる。

> Je fais des sacrifices de détail qui me font pleurer, mais enfin il le faut![38]
>
> デテールをいくつか犠牲にしました。大層惜しいのですが，そうしなければならなかったのです。

一つのデテールどころか，一つの文章，一つの単語に到るまで，「ちょっとした句読点一つでさえも」全体とかかわりを持っているのだ。前以て詳しいプランを作っておくというのは，従って，執筆を進めてゆき，個々のデテールのなかに迷いこんでいるときに，全体の像を見失わないための実際的な方法でもあるわけだ。

> J'écris maintenant d'esquisse en esquisse; c'est le moyen de ne pas perdre tout à fait le fil, dans une machine si compliquée sous son apparence simple.[39]
>
> 私は今，草稿を重ねながら書いています。見た目は単純でも実に複雑な

機構のなかでは，それが筋道を見失わない方法なのです。

前に引用した個処で「注意が二分される」と言っていたように，執筆の間中ずっと，全体と部分との双方へ気を配りながら書かねばならないということになる。

以上，「構想」をめぐってのフロベールの方法を書簡集におけるフロベール自身の表現によって検討してきた。

このことを元にして，フロベールの作品制作の過程をまとめてみると，作品はまず一つの「着想」idée として頭に浮んでくるわけだが，それが「構想」conception という形をとるときには既にかなり明確になってきている。その際，「構想」というのは，ある「主題」sujet をいかに取り扱うかという方法にもかかわるものであって，単に作品の内容となる事件，テーマというだけのものにとどまらない。それは又，作品の「全体」ensemble とか「統一性」unité とかに関係の深いものであるから，全体と部分との均衡を考慮した一つの統一体としての作品の骨組み・構造という形で把えられているらしく思われる。従って単なる「着想」ではなく，かなり詳細に亘った具体的なものと考えられ，「着想」の方は「構想」以前の，その元になる観念を指すと考えたい。

で，その作品の「構想」を具体的に書き記したものが「プラン」plan と呼ばれるものであって，「プラン」を作ることによって，今まで頭のなかにあった「構想」をはっきりさせ，この言わば制作の「見取図（プラン）」が出来上ると，フロベールはやっと書き始めるという順序になる。言いかえれば，一つの作品はフロベールにおいてはまず頭のなかで完全に出来上った姿で予め存在していることになる。その見取図通り，計画通りに実行するということが，フロベールにとって「制作」travail という作業の意味らしい。

ところで，長い期間に亘る制作の間には，時として十分練ったはずのこの全体の「見取図」，明確であったはずの「構想」が浮動してくる場合もあり，訂正を余儀なくされるということも起こりうる。そうすると，プランの部分的な

変更によって全体の構想は当然変ってくるから，既に書きあげてしまった部分も，変更された構想に従ってもう一度全体との関連で検討し直されねばならなくなるだろう。プランは全体の統一にかかわるものだから，一部分のみの修正にはとどまらないわけだ。こうして，時には何度となく，前に書いた部分を見直す必要が出てくる。フロベールが推敲に推敲を重ねたことは余りにも有名だが，その一つの理由は，このように書きながら絶えず全体と部分との釣り合いを測っていたためではなかろうかと思われる。

〔注〕

引用はすべてコナール版書簡集による。(*Correspondance*, 9 vol., Supplément, 4 vol., *Œuvres complètes de Gustave Flaubert*, Conard.)

1) III, p. 140.
2) I, p. 361.
3) I, p. 326.
4) Supplément II, p. 65.
5) V, p. 331.
6) V, p. 417.
7) III, p. 21.
8) IV, p. 315.
9) II, p. 362.
10) III, p. 148.
11) Supplément II, p. 176.
12) III, p. 96.
13) IV, pp. 440-441.
14) IV, p. 451.
15) I, p. 375.
16) IV, pp. 35-36.
17) Supplément IV, p. 306.
18) III, p. 365.
19) Supplément I, p. 321.
20) VI, p. 404.
21) IV, p. 440.

22) III, p. 321.
23) II, pp. 345-346.
24) Supplément I, p. 324.
25) II, p. 345.
26) Supplément I, pp. 100-101.
27) III, p. 230.
28) III, p. 424.
29) IV, p. 205.
30) IV, pp. 164-165.
31) VIII, p. 309.
32) II, p. 339.
33) II, p. 416.
34) VII, p. 290.
35) I, p. 321.
36) IV, p. 23.
37) IV, p. 60.
38) III, p. 381.
39) III, p. 44.